藤女子大学
藤女子短期大学

No. 2

図書館だより

'76・2

1. 藤学園五十年の歩み
2. 幸福の条件——読書
3. 「清水福市記念賞」を受けて
4. 訪 問 記
5. 図書館と学生
6. 資 料 紹 介
7. 新 着 案 内
8. NEWS

藤学園五十年の歩み

伊　藤　政　雄（図書館長）

本学の設置者である学校法人藤学園が創立されてから，今年で満50年になったので，これを記念して昭和50年11月1日に，卒業生，父兄，在校生，職員及び学園に関係ある多くの人々が集まって盛大な式典と祝賀会が催され，更に記念事業として体育館の改築が着工されたことは，まことに意義あることであり，学園関係者にとってこの上もない大きな喜びであった。これを契機として本学園の50年の歩みを顧み，将来の展望を考えることがわれわれにとって極めて大切であると思う。

さて本学園の歴史を考える場合に絶対に忘れてならないのは，創設の恩人であるヴェンセスラウス・キノルド司教である。司教は北海道の開発振興に対する教育の役割を重視し，教育の根本は女子教育にあると考え，大正の初めの頃ドイツ本国から布教及び教育のためカトリックの修道女を迎えることに決めた。この要請により愛の伝道を志して，大正3年7月9日，4人の修道女が故国ドイツを出発して日本に向ったが，たまたま第1次世界大戦が勃発したため，地中海で6週間も船中に抑留されたのち，空しくドイツに引き返した。戦後再び世界に平和が訪れたので，大正9年5月31日初志を貫徹すべく修道女クサベラ・レーメは他の2人の修道女ヨハンナ・サロモン，カンヂタ・ホン・デェル・ハールと共にドイツを出発し，長い旅ののち翌年3月15日に札幌に到着した。キノルド司教とレーメらは早速学校の設立を計画したが，時あたかも第1次世界大戦のあとであったので，ドイツマルクの貨幣価値が極端に下落し，準備した資金も，送金されてくる金もほとんど役に立たなくなった。その結果，学校建設には意外の年月を要し，基金獲得のためアルバイトするなど，この間における関係者の苦労は言語に絶するものがあり，そのため設立の中心であったキノルド司教は，ついに失明に等しい状態にまでなった。

創　設　時　代

然し創設者たちの崇高な愛の精神と献身的努力の結果，大正13年9月23日，札幌市北16条西2丁目にドイツ式の堅牢で荘重な1,984㎡の校舎の上棟式が行なわれた。同年12月，「高等女学校令」による修業年限5か年の「札幌藤高等女学校」の設立が認可された。翌14年4月開校し，その経営にはフランシスコ修道女会が当たることになり，初代校長にはヨハンナ・サロモンが就任した。第1回の入学式は同年4月8日に行なわれ，167名の少女がドイツ式の堅実な教育を受けようと，希望に胸をふくらませて，札幌は勿論広く全道各地から集まって来た。然し初代校長サロモンは開校までの過労のためか，開校後間もなく急逝したので，同年7月7日にクサベラ・レーメが2代目校長に就任した。その後学校は順調に発展し，昭和5年3月，第1回卒業生として117名が立派に巣立って行ったのであった。

この学校の教育方針は，カトリックの精神を基調とし，謙遜・忠実・潔白の三徳目を校訓として，質素で堅実な人間形成をはかる一方，学問・芸術に愛着をもち，深遠な真理の探究に励み，正しい判断力と適確な実行力を身につけた人間味豊かな誰からも愛される婦人を育成することであった。この建学精神を具体的に身につけた卒業生が年々世の中に出るに及んで，世間は目を見張って驚き，喜んでこれを歓迎し，校運は日に日に隆盛に向って進んだ。

苦　難　時　代

然し，その後わが国が支那事変を経て漸次戦時体制に移り，昭和16年2月，ついにクサベラ・レーメが外国人であるという理由で校長の職を去るように命ぜられ，代って修道女牧野キクが第3代目の校長に就任した。わが国が太平洋戦争に突入してからは一層戦時色を濃くし，この学園の歴史上最大の苦難が始まったのであったが，牧野キク校長や，前校長クサベラ・レーメらの必死の努力により，校舎の一部を被服の軍需工場にして勤労奉仕をしたり，生徒を援農などの勤労動員に出して協力し，この苦難時代を無事切り抜けたのであった。

躍　進　発　展　時　代

やがて戦争も終り，平和が訪れると間もなく，わが国の教育界に大改革が起こり，新しい教育理念と方法が潮のように入って来たが，本学のカトリック精神を基調とした教育方針は根本においては少しも変らなかった。当時は終戦間もない頃であり，道内には女子のための私立の専門学校以上の学校はなく，その設立を望む声が澎湃として起こったので，道民の強い要望に応えて昭和22年4月より「専門学校令」による国語科と生活科をもつ藤女子専門学校を開校し，校長に牧野キクが就任した。また一方，札幌藤高等女学校は，新制度により昭和22年4月より藤女子中学校を，同23年4月からは藤女子高等学校を設置し，従来の札幌藤高等女学校在籍の生徒を，それぞれの相当学年に編入した。その後藤女子専門学校は，昭和25年4月に新制度による組織変更が行われて，藤女子短期大学が誕生したので，翌26年に発展的に廃止となった。短期大学は，カトリック精神を基調として実際的専門教育をなし，家庭人として，また社会人として有為の婦人を育成することを目的とし，英文科，国文科，家政科の3科をおいた。これは当時の本道教育界における画期的出来事であったので，本学の教育方針と教育内容を慕って広く全道は勿論道外からも優秀な女子学生が志願して来た。現在，短大には英文科，国文科，家政科（栄養コース・家政コース）と保育科の4科の外に修業年限1年の別科とがあり，学生数はおよそ1,200人である。各科の履習科目は，共通の一般教育科目の外，専門科目と教職科目とがあって，それぞれの分野で権威ある優れた教授陣の指導のもとに，極めて真剣な学問・研究がなされている。更に昭和36年には，4年制の藤女子大学が誕生し，学長には短大と兼務で

牧野キクがなった。当時道内には女子のための4年制大学がなかったため，その設立は道民から強く要望されてあったので，本学の開学はまさに旱天の慈雨として各方面から喜ばれた。学部には文学部がおかれ，英文学科と国文学科とに分かれ，両科とも一般教育科目の外，専門科目及び教職科目があり極めて充実した内容である。教授陣には，従来の短期大学の教授の外，道内は勿論広く全国より優秀な学者，教育者を招聘した。その後毎年優秀な人材を世に送り出し今日に及んでいるが，現在では全国的に本学の名声が知れ渡っている。学生数は現在約400名で志願者が多いのにもかかわらず，小数精鋭主義の教育を続けている。

建物も昭和34年と35年にかけて中学校，高等学校の校舎を鉄筋コンクリート5階建の堂々たるものに改築し，内部の諸設備も，普通教室の外，図書室，音楽室，美術室，家庭科実習室，理科室，社会科教室，英語ラボ教室などの特別教室もあり，極めて充実完備したもので全道に誇り得るものである。更に昭和40年から43年にかけては大学校舎の大々的増改築が行われ，鉄筋コンクリート5階建の普通教室，実験・実習室の外，1,950坐席を有する関東以北第1の荘重な大講堂及び80,000冊の図書を有し，三つの付属ゼミ室を含む完備した図書館，地下には一度に400人が着席できる大食堂があり学生の憩いの場になっている。また創立者キノルド司教を記念した古い佇いの「キノルド記念館」は玉葱形の尖塔とともに藤のシンボルになっているが，内部は大学各クラブの部室や同窓会の集会所としても利用されている。学内は常に清潔が保たれ，自由で明るく，更に学問的，宗教的落ち付いた雰囲気が流れている。体育館も現在50周年記念事業の一つとして改築が行われており，51年中には完成の予定である。一方，校舎と道路1本隔てた西方に鉄筋コンクリート5階建の完備したホテルのような寄宿舎があり，中学・高校生及び大学生を含めて約400人の地方出身の学生・生徒が，明るく規律ある生活をしながら楽しく勉学に励んでいる。このように藤学園は北16条の西2丁目，3丁目にかけて大学校舎，中・高の校舎，マリア院，寄宿舎を含め完備した施設・設備を持つ堂々たる建物群がその偉容を誇り，近くにある北海道大学と共に札幌市北部の教育圏を形成している。現在藤女子中学校及び藤女子高等学校の校長は修道女前田光子であり，藤女子短期大学及び藤女子大学の学長は，昭和49年春に勇退した牧野キクの後を継いだ修道女山下二枝がその任に当たっている。

藤学園はこの外に旭川市と北見市に姉妹校をもっている。藤学園旭川高等学校及び藤学園旭川中学校は，旭川市が昭和28年に「藤学園誘致期成会」を作って，同市に藤学園の姉妹校を作ることを強く要請し，誠意ある陳情を展開してきたので，学園当局も意を決して同校を設置したものである。初代校長はクサベラ・レーメが自ら就任し，札幌藤学園開校の時と同じく全力を投入して開校とその後の運営に当たった。同校は初め小学校や旧兵舎を借りての開校であったが，その後よい環境のところに新築され内容も完備した校舎となり，順調な発展をとげている。現在の校長は，2代目多田春代(現学園理事長)を経て修道女戸川好子である。北見藤女子高等学校及び同中学校は，北見市当局の熱心な要望に応じ，昭和31年4月に北見柏陽高校の旧校舎の提供をうけて誕生した。初代校長は札幌の牧野キクが兼務したが，その後間もなく修道女桶田千代野が校長となり

現在に及んでいる。このように旭川，北見の両姉妹校も地域社会の要望に応えて，順調な発展を続けている。

昭和16年2月，養護学校設立のため，樺戸郡月形村字新田に240,000㎡の土地を購入し，同20年周辺農村の婦女子のため，冬期間の裁縫学校を開設したが，これが揺籃期で，同27年に各地の姉妹校から要養護生徒を預かり，養護学校として発足した。その後29年4月，土地の人々の強い要望により，新樂藤学園中学校を，更に33年4月，高等学校をそれぞれ開校し，遠く都塵を離れた静寂な自然環境の中で，カトリックの精神のもとに家庭的な雰囲気で理想的な教育がなされたが，生徒の漸減期に対処して昭和45年廃止され札幌の藤女子高等学校と合併した。同年8月，同校の建物を利用して養護老人ホーム「藤の園」が開園された。

藤学園はこの外に，札幌市，小樽市，旭川市，函館市，帯広市，苫小牧市，その他道内の主要都市及び埼玉県の草加市や青森市など全道全国の20か所に幼稚園を経営している。このように本学園は，上は4年制大学から下は幼稚園に至るまで，文字通りの綜合学園として本道は勿論本邦の教育界に多大の貢献をしているのである。このような歴史ある大学に現在学んでおられる学生諸君はまことに幸せであると思う。

今年，本学園が創立50周年という意義ある年を迎えるに当たって，学園関係者は挙って慶賀するとともに，本学の歴史を顧み，創設者たちの偉大なる労苦を偲び，もう一度建学の原点に立ち，更に時代の推移を眺め，将来に対する展望を思索することが必要であると考える。今後，本学園が豊かな神のご恩寵と，一般社会の深い理解や援助と，同窓生，父兄及び教職員の一層の協力とによって益々済々発展し，国家・社会に貢献してゆくことを心から祈るものである。

資料紹介

クストー『海の百科』全20巻　平凡社

"海の巨人"クストー

南フランス生まれのクストーは，元海軍軍人であり，アクアラングの発明者であり，海洋調査船カリプソ号の船長であり，記録映画「沈黙の世界」の制作者であり，モナコ海洋博物館の館長でもある。常に"海"そのものを見つめ続け，そこにひそむ神秘に魅せられた彼の目が，そして心がとらえた美しい不思議な世界を私達の前によみがえらせてくれる。

このクストー『海の百科』は，1973年に出版された"The Ocean World of Jacques Cousteau"の訳で，豊富なカラー写真と明快な文章はまさに"海の巨人"の名にふさわしい評価を得ている。

彼は日本の読者に向かってこう語りかけている。

わたくしが30年以上もまえに，水中メガネをつけて海底をのぞいたその日から，より深く，より長くもぐり，より多く学ぶことが目標でした。地球でもっとも価値のある生命と，生命の母である海，生きており，その中でぼう大なドラマと季節がくり返される海こそ，人類に残された豊かな遺産であります。わたくしがじかにのぞき手にふれ，それから考えた体験の集積である<海の百科>を，日本のみなさんは，きっと，熱い共感をもって迎え入れてくれるものと確信します。―― 1975年4月 ――

幸福の条件——読書

落　合　健　一
（本学教授）

19世紀のドイツの思想家ヒルティの「幸福論」のすみの方に，仕事・愛・信念等幸福の主要諸条件の補助として読書が書かれていた。当時は出版業の発達により書物の入手が知識人のみならず一般人でも容易になり，日常多忙の中，或いは為すべき有意義なことのない倦怠の中で，活字のとりこになる楽しみが拡がりつつあった頃と思う。反面ショーペンハウエルは読書に凝りすぎて馬鹿になるなと言っている。ところで読書の「楽しみ」についてはよく語られるが，読書そのものを積極的に「幸福の条件」の一つとして考えたものは案外に無いのである。

戦時中三谷隆正著「幸福論」が出版され，戦争と無関係の好著として熱読されたが，この中で強調されている幸福の条件が，健康・結婚・友情・仕事・信仰の5つである。実に良く考察された幸福論だと思う。しかし「読書」は数えられていない。英国のラッセルは大学でなりふり構わず研究を続ける若き科学者達の幸福を，「幸福論」の中で幸福とは手近かな所にもあるものの好例として指摘している。しかも彼等は肉体的幸福も知的幸福も兼ね備えている，だが芸術家は必ずしもそうは行かない。幸福の為には先ず不幸の諸原因から脱するように努力し，更に積極的条件として，熱意・愛情・家庭・仕事・非個人的な興味（専門外の興味のこと）・努力とあきらめ等を考察している。だがここでも読書は補助的なものである。米国のキルパトリックは「教育哲学」の中だが，「良き生活」（それは同時に幸福な生活）の12の条件の中に，美の創作鑑賞・音楽をあげているのに読書はあげていない。

書物が今のように一般的になる以前はどうであっただろうか。「読書」のかわりに「瞑想」があったと思う。アリストテレスが神の仕事「観想（テオリア）」にあずかる人間の純理性的な活動（観想・瞑想・黙想いずれも同一のこと）の至高の幸福を説いて以来，瞑想が幸福の条件の重要なものの一つと受取られた筈である。私は藤に来てカトリックの黙想の行事を知ったが，20世紀文明の中では黙想は幸福の条件としては影が薄くなったと思う。中世は勿論，近世でも今世紀のような騒々しい文明の興る以前は，黙想が「心の平和（幸福）」であると，立派な宗教人（例えばトーマス・ア・ケンピス）のみならず一般人にもかなり本気で受取られていたのだろうと思う。ストア派の哲学者セネカの「幸福な生活について」では，悪に対しても権力に対しても絶対に屈服しない剛毅で自由な理性の高貴な徳性の幸福を一貫して力強く説いているので，アリストテレスから伝承された瞑想の幸福が当然そこには考えられそうだが，どうもセネカの中に出てこないのはどうしたことか。

日本のことで私の体験的実感を述べよう。戦争直前の好景気の頃，町の中に書店の数が増え，その店が規模をどしどし大きくし，書物自身が家庭の応接間のアクセサリーとして立派な家具と並んでその地位を獲得した。戦後しばらくすると親から叱られずに夢中で書物に読みふけっている小中学生を見かけるようになった。私はうらやましいと思った。最近はまた見かけなくなったようだ。テレビのおかげか，もっと活動的になれという現代教育の為か。

かつての瞑想にかわって読書が幸福の条件の一つになってよさそうに思うが，この考えは現実離れなのだろうか。

訪　問　記

丹　貞一先生

（栄養学・食品衛生学）

研究室のドアを開けると，6段書架があり，食物史，食品衛生，衛生化学，実験書等の図書がぎっしりと並べられ，足元には顕微鏡その他の実験器具が置かれていました。これらの谷間を通って洋風の窓際に進むといつもの笑顔で私達を迎えて下さいました。先生の机の上にも，又，サイドテーブルにもやはり何種類かの和洋雑誌の最新号が積まれていて，部屋全体がいかにも科学者の研究室らしい雰囲気でした。

先生は，鋼路の御出身で，薬学を専攻し，卒業後は郷里の病院，そして札幌市立病院で薬剤師をなさっていたとのことです。

当時〝心身共に気持ち良く仕事をしていくにはどうしたら良いか〟と考えていた矢先，東京市への出張で，ロックフェラー財団寄付による国立公衆衛生院を見学する機会を得ました。そこの環境と熱心にお話して下さる石川知福先生との出会いによって，その後ここに入学することになりました。1年間の課程を終え，なお1年，ビタミン・脂肪の権威者のもとで実験に明け暮れたということです。

その後，再び，市立病院の栄養部新設のために招かれ，直後，道の食糧研究所へ，そして本学の栄養コース新設のためにおいでになられました。その間も一貫して北大へ研究生として通われ，ここでドクター論文「グリコーゲンに関する研究」を提出されたとのことです。先生が仰言るには，社会のジグザグコースを歩んで来たとのことですが，いずれの場合も自分から求めたのではなく，特に請われてその職につき，どこでも気持ちよく働けたということです。（昨今の学卒就職難にとっては美しい限り）これは結局，好きな化学がやれるので喜んでいたとの事で，それが先生の生き方そのものでもあるようです。学生にも「好きなもの一つを見つけ，それをライセンスとして生かす工夫，努力をしてほしい」と仰言っていました。そのような学生と共に研究していきたいというお気持の中に栄養コースの4年制化と学園の発展を望んでいらっしゃるようでした。（赤石・小野寺）

近野　亘先生

（宗教学・中世哲学）

先生が今一番気がかりなこと，それは一人で思索する時間が持てなくなることです。

思索するとは先生にとって祈り（哲学する）の時間を持つということで，そのような時間を持つことによって自分を客観的に見つめることになるのです。

> 「忙とは心を亡ぼし，忙殺とは心を殺すことになる。そのような状態にならないように自分で時間をつくっていかなければならない。竹に節があって細くても強いように人間の生活のリズムも時間と空間を横に切る時を持たなければならない。勤勉過ぎる日本人は自分から時間をつくろうともしないし，たとえあったとしてもどのように使ったらよいか迷ってしまう。個性が確立された社会で生活している外国人は人間（自分）を大事にし，それをとりまく環境をも大切にする。精神と共に肉体をも休息させなければならないという合理的な考え方が自然に身についている。」（先生談）

先生が理想とする生き方も思索の成熟度によるのです。その人の一生での名誉，業績にとらわ

れずいかに内面的な生活を送ったかという充足感にかかわってくるのです。

☆　☆

多忙な1日を終えた先生はくつろいで音楽，絵画に親しみ，時にはオルガンを弾きながら思索の時を持ち続けるのです。（田中・深見）

「清水福市記念賞」を受けて

大　山　　清
（整理部主任）

「清水福市記念賞」は，創設されてから日も浅く一般にはまだ耳あたらしい賞と思われます。

この賞は，昭和34年から46年まで，日本私立短期大学協会の，図書館研究委員会委員長であられた，故清水福市先生の業績をたたえるために，また図書館の一層の発展を念願された先生のご遺志を，永く受け継いで行くために設けられたものです。

昭和50年度のこの記念賞を，思いがけなくも私はいただくことになりました。授賞の規定では，「私立短期大学の図書館の向上発展のために尽くし優れた業績をあげたもの，またはすぐれた考案，あるいは論文等を作成したもの――」を対象とするということで，私がその前者に相当するとしての受賞でした。才乏しく知識もまた貧しい私には，賞というものに価するほどの業績は何もなく，恥ずかしさに穴があったらかくれてしまいたい思いでしたが，この受賞がこれから後の藤の図書館活動，あるいはまた女性の職業意識等を高めることにも繋がって行く，との山下学長，伊藤館長両先生からの励ましのお言葉もありましたのでお受けすることに致しました。

こと新しく言うまでもないことなのですが，この図書館のいまある姿は，館長先生のご指導のもとに，今日までずっとお互いに努力しあい，助けあって来た館員の活躍のたまもの，と思われます。このたびの賞も，ほんとうは図書館の全員に対してこそ贈られたのであり，私はただ年長であるために，代表としてお受けしたのでした。

司書となってから，いつか20年あまりの歳月がすぎましたが，この間，いつも自分が数々の好意と善意に囲まれてきたことを思い，感謝で胸が熱くなってきます。読書と，辞書に親しむ習慣を与えてくれた父，図書館人としての真のあり方をご教示下さった先達の方達，中央から遠くはなれて働く私に，今も惜しみなく，援助の手をさしのべて下さる多くの友人等々―。そして，1日の大半を同じ職場で，同じ目的で，日を追い月を重ね，努力しあって来た同僚達と，この学園との縁は，私にとり，得がたい幸運でした。

日暮れて道遠し ――の嘆きの私ですが，学園創立50周年のこの年に，この賞をいただけたことは何か意義ふかいものと感じられます。

美しい秋晴れのきょう，新しい意欲をもって51年への第一歩をふみ出す学園の歩調にあわせ，私もこのよきチームの一員として，図書館の一層の成長を期し，清水先生の限りない前進をめざされた，悠遠のお心にこたえたいと思います。　（1975.11.1――藤学園50周年記念の日――）

略　　歴

昭和28．3	慶応義塾大学図書館学科卒業
昭和28．4	北星学園女子短期大学図書館勤務
昭和36．9	北星学園女子短期大学図書館退職
昭和36．10	藤女子大学図書館勤務 現在に至る。

図書館と学生

「読・書・と・は？」

渡　辺　久美子
（国文学科4年）

最近，無性に推理小説やら，俗に大衆小説と称される部類のものが読みたくなって仕方がない。12月という月が気になり出したとたんのことで，我ながら自己逃避の一端を担っているこれらの小説に，後ろめたい気持ちで感謝しながら，自分自身を憐んでいるというおかしな状態なのである。

この部類の小説は，いわゆる精神の緊張を欲せず，私達の興味を半減させることなく筋の運びだけで読み進めて行くことができる。2，3行読み飛ばしても，何ら支障はないのである。読み終えた後は，満腹感を味わった後の虚脱感にも似て，しばし陶酔の極地に陥ることさえある。考えてみると，それは，自身の低い生活次元と連関していて，絵解きパズルの答えを得た喜びというよりも，むしろ得させてもらったというべき満腹感なのであろうが。

故に，自己内部での燃焼や苦渋を体験することなしに，他人行儀的なところに身を委ねることが可能になってくるのであろう。にもかかわらず，これらの小説が根強く，又底知れぬ力をもって，多くの人々の中に入り込んでいるのは何故か。人々の，生活を楽しむ娯楽の部分で，あるいは生活の渇きを癒してくれる部分で，滋養物となっていることは確かであろう。と言うことは，これらの小説が，人々の現実意識を引出していることになる。そこに，小説と人々との許容関係が生じている。しかし私達の意識は，そこに安住すべきものではない。自己の視点を狭く固定させる危険性を孕んでいるものを土台として，より高次なものを目指していく存在であると思われるから。

今の私は，「音をひそめた歩きぶりが却ってはっきりと意識にひびいたのである。」という，ある小説の一節をしきりに気にしながら己れの自己満足のために，小説を片手にしているのである。

図書館について

簾　内　雅　子
（家政科2年）

そろそろ，私の藤における2年間の月日は終りを告げようとしている。

その中で，割と多くの時間を過ごしてきたのが図書館である。空き時間・昼休み・放課後など，気がむくとヒョイとそのドアをくぐり実に気ままな雰囲気を楽しませてもらった。

哲学の授業の後は，プラトン・ソクラテス・サルトルなどのページを開き，そして全く理解できず，しかしフムフムと頷きながら……。空腹時にはカラー版料理の本を……。又，ノスタルジックに草花・昆虫・星の世界に入ってゆく事もよくあった。

そして，私にとって一番大きなものが，太宰治・三島由紀夫・大江健三郎との出会いであった。出会いとは言っても，私は作品を深く追求する方ではなく，ただその活字を猛スピードで，自分に流し込むといった方があてはまるのだが，そこには私にとって，何にもかえがたい楽しさがあったし，又，非常に貴重な時間でもあったと思う。

図書館の持つ，静寂さ・どことなくひんやりとした空気・木の表紙で占められた色彩などを背景として，さまざまの現実には体験できない人物・事物と対面する事，それは，やや独善がりの，私だけの小さな世界だったかもしれない。

けれど私はこう思う。図書館――それはやはりすばらしい所である，と。

資料紹介

ダンテ『神曲』 全3巻

寿岳文章訳 集英社

「地獄篇」「煉獄篇」「天国篇」の3部からなり，真・善・美が一体となった積極的な"愛"の力による魂の純化をヨーロッパ中世期の思想的背景の中に，たからかに謳歌した『神曲』。

地獄篇

その残酷物語さながらに再現された「地獄篇」の生々しい場景を，イギリスの詩人・彫版者ウイリャム・ブレイクの格調と迫力あふれる「地獄篇」の全挿絵69点が飾る豪華決定版！

煉獄篇

『神曲』の中，もっとも奥ふかく壮大無比の構成を有する"煉獄篇"……人々が罪を浄めているその浄罪のありさまを，寿岳文章氏畢生の口語訳が，生ま生ましく再現！ウイリャム・ブレイクの挿絵20点を収録。

天国篇——近日刊行予定

（集英社 新刊案内より）

ジョルジュ・ルオー

『受難』——パッシオン

岩波書店

アンドレ・シュアレスの詩による木版画にもとづく54点の油彩画は，1930～1937年の制作というからルオーが60才代のものなのだろうか。「受難」と題するこの連作で，詩と画は互いに拘束することなく，史実にも順序にもこだわらず，2人の共通課題をキリストの地上における最後の苦しみと死に向けて追及する。

娼婦も，浮浪人も，農夫も役人も盗賊も，人間性の低辺に注がれるルオーの眼によってあるがままに受け容れられる。彼らの中心にあるキリストの，黒い太線で隈どられる顔のやさしさ。心の内面において描くといわれるルオーの思想の最終段階を示すものといえよう。

彼の信仰告白とも解されるこの全原画（82枚のうち54枚）が日本人識者によって散逸を免れ，出光美術館に永久保存を約束されたことを心から喜ぶものである。

（N・H）

新着案内 ～50年度の主な資料～

ヒマラヤ〈人と辺境〉	白水社
類聚名物考 全7巻	歴史図書社
ファブリー研秀 世界美術全集	研秀出版
ラルース料理百科事典	三洋出版
書の日本史	平凡社
デュラント世界の歴史 全31巻	日本ブッククラブ
日本暦日原典 内田正男著	雄山閣
西尾実国語教育全集	教育出版
野草ハンドブック 全3巻 富成忠夫著	潮新社
平安朝服飾百科辞典 あかね会著	講談社
世界旅行地図	青蛾書房
擬音語・擬態語辞典 天沼寧編	東京堂
キーツ全詩集 全4巻	白鳳社
伝承あそび12カ月 全4巻 芸術教育研究所編	黎明書房
日本の民俗 全47巻	第一法規
児童心理学辞典	協同出版
難病対策ハンドブック	社会保険出版
芭蕉物語 全3巻 麻生磯次著	新潮社
和刻本漢詩集成	汲古書院
アメリカ古典文庫	研究社
大日本人名辞書 全5巻	講談社
江戸時代図誌	筑摩書房
社会福祉辞典	誠信書房

Critical idiom. 30 v. Methuen.

The Critical temper. 3 v. Ed. by M. Tucker. Ungar.

Deutscher Kursus. (Audiocassette) Linguaphone Institute.

Dictionary of Oriental literature. 3 v. Ed. by J. Prusek. Allen & Unwin.

Dictionary of the history of ideas. 5 v. Ed. by P. P. Wiener. Scribners.

Linguistic atlas of Scotland. Ed. by J. Y. Mather & H. H. Spietel. Croom Helm.

Manual of foreign languages. (万国翻字法大全) By G.F. von Ostermann & A.E. Giegengack. Reprinted by Fujio Mamiya.

Milton in Japan. By Mitsuo Miyanishi. Kinseido.

Modern American literature. 3 v. Ed. by D. N. Curley. Ungar.

The Novels and selected writings of Daniel Defoe. 14 v. Reprinted by Clowes.

Virginia editon of Ellen Glasgow. 12 v. Reprinted by Rinsen Book Co.

The Dial: a magazine for literature, philosophy, and religion. v. 1-4 (1840-1844) Russell & Russell.

The Shakespeare Association Bulletin. v. 1-24 (1924-1949) AMS Reprint Co.

昭和49年度部門別貸出冊数

	和書	洋書	合計
総記	774	82	856
哲学	1,241	31	1,272
歴史	637	28	665
社会科学	1,485	7	1,492
自然科学	945	6	951
工学・工業	926	2	928
産業	18	0	18
芸術	583	4	587
語学	840	73	913
文学	14,629	1,667	16,296
計	22,078	1,900	23,978

(逐次刊行物は除く)

NEWS.....

永年勤続者の表彰

昭和50年11月1日　藤学園創立50周年記念式が行なわれ，その中で永年勤続者に対する表彰がありました。学園全体で68名の表彰者のうち図書館からは伊藤政雄館長・黒沢田鶴子が表彰されました。

返却方法の変更について

貸出図書の返却は出納台で取扱っていましたが，今後は受付の返本台に置いて下さい。

ただし，延滞・更新の場合は従来通り出納台で取扱います。

宇野文庫の移動について

243のゼミ室に別置してありました宇野文庫を夏休み中に書庫1層に移動しました。今まで通り利用出来ます。

春季休暇中の開館・休館日の予定

休日開館（9時30分—16時）

- 3月10日—3月13日
- 4月5日—4月6日
- 出納時間　9時30～15時30分

休　館（資料点検期間）

- 3月15日—4月3日
- この期間長期貸出をいたします。

臨時休館

- 4月7日　入学式
- 4月8日—10日　新入生オリエンテーション

編集顧問　川勝正治・山田昭夫
カット　林　七枝

編集後記

☆2号は，学園創立50周年にあたり，記念として「藤学園五十年の歩み」を載せました。☆学生の皆さんにとって，親しみのある図書館になり，また少しでも利用に役立ちたいとの方針で編集しました。☆前号と編集者も全員替わり，不慣れなため思うようにできませんでしたが，今後はもっとよいものにしたいと願っています。☆カットは，シスター　林にお願いしました。（赤石・深見・岡林・小野寺・田中）

藤女子大学
藤女子短期大学　図書館だより　第2号　1976. 2. 1 発行

発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館
印刷者　札幌市東区北12条東3丁目　天使院印刷製本部